

平成 19 年 1 月 4 日

各 位

株式会社常陽銀行  
株式会社百十四銀行  
株式会社十六銀行  
株式会社南都銀行  
株式会社三菱東京 UFJ 銀行  
日本アイ・ビー・エム株式会社

### 『地銀共同化システム』の稼働について

株式会社常陽銀行（頭取 おにざわ くに お 鬼澤 邦夫）、株式会社百十四銀行（頭取 たけさき かつひこ 竹崎 克彦）、株式会社十六銀行（頭取 こしま のぶ お 小島 伸夫）、株式会社南都銀行（頭取 にしぐち ひろむね 西口 廣宗）の地方銀行 4 行（以下「参加行」と、株式会社三菱東京 UFJ 銀行（頭取 くろやなぎ のぶ お 畔柳 信雄）および日本アイ・ビー・エム株式会社（社長 おおとし たくま 大歳 卓麻、以下「日本 IBM」）は、平成 15 年 4 月より『地銀共同化システム』プロジェクトを進めてまいりましたが、本日、第一弾として常陽銀行にて、同システムが稼働しました。

#### 1. 背景

参加行は、三菱東京 UFJ 銀行の預金・融資・外為など主要な勘定系と情報系システムをベースとするシステムの共同化を行うことで合意し、平成 15 年から約 4 年にわたり検討、開発を進めてまいりました。常陽銀行の稼働開始を皮切りに、今後、百十四銀行、十六銀行、南都銀行も順次『地銀共同化システム』に移行する予定です。

#### 2. 『地銀共同化システム』の内容

##### (1) 目的

IT 投資のコスト削減に加え、『地銀共同化システム』の維持・発展を通じて、将来の業務面・制度面・技術面への対応力を高め、商品・サービス・事務についても極力統一の上、『地銀共同化システム』の対象範囲拡大を図り、顧客サービスの向上をめざすものです。

##### (2) 概要

『地銀共同化システム』は、三菱東京 UFJ 銀行の現行システムを基に、参加行共通ニーズと個別ニーズを反映させて構築したものです。なお、地方銀行以外のシステムをベースとした地方銀行共同化形態は国内初です。

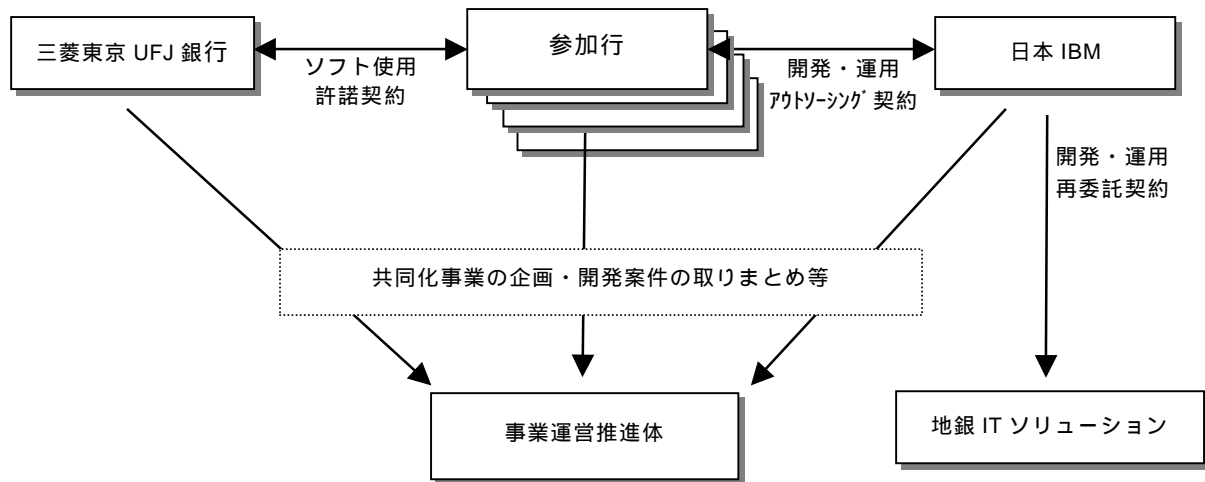
参加行は、本システムへの移行後も三菱東京 UFJ 銀行から継続的に業務プログラムの提供を受け、日本 IBM に開発・保守・運用を委託し、コンピュータも同社のセンターに集約します。

共同化に伴う対象業務は、当初、預金・融資・外為などの勘定系、情報系を中心に開始し、参加行は、共同化対象分野についてシステムを通じ三菱東京 UFJ 銀行と情報の共有を図りつつ、今後、共同化対象業務の範囲をさらに拡大していきます。

(3) 運営スキームの概要

『地銀共同化システム』の開発・運用の効率運営を目的として、平成 16 年 4 月に日本 IBM の子会社として株式会社地銀 IT ソリューションを設立し、『地銀共同化システム』の開発を行ってまいりました。稼働後の開発・保守・運用も同社が担います。

今後の共同化事業の企画・参加行共同開発案件の取りまとめは、参加行、三菱東京 UFJ 銀行、日本 IBM が参加する事業運営推進体にて行います。



以上